

# 平成16年産粗飼料の傾向

16年産粗飼料については、様々な天候(干ばつ、台風)要因が影響したと思います。1月下旬までに寄せられました試料についてまとめました。

## ●乾草(1番草)の傾向(表1、図1)

14、15年産と続いた粗蛋白質(CP)、総繊維(OCW)が低い傾向は改善されています。1番草収穫期までの天候は安定しており、収量は多かったものの、干ばつ気味で出穂時期も早く、繊維消化性(Ob/OCW)の低いものが多いようです(図1)。

表1. 乾草の平均値(乾物%)

	水分	粗蛋白	ADF	OCW	TDN
H 16	17.7	9.3	40.0	68.4	51.2
H 15	18.3	8.7	39.8	67.7	51.8
H 14	18.5	8.3	38.8	66.6	52.8
H 13	16.5	9.2	40.9	69.6	50.7

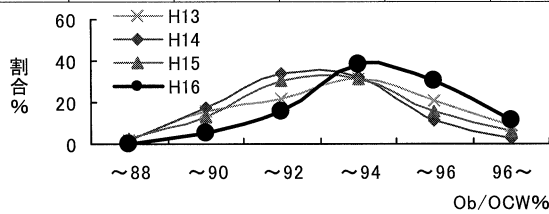


図1. 混播乾草のOb/OCW%分布

## ●牧草サイレージ(1番草)の傾向(表2~3、図2)

乾草同様に14、15年産と続いたCP、OCWが低い傾向は改善されています。ラップサイレージについても同様です(表2、3)。しかし、CPについては地域でその傾向も異なるようです。牧草サイレージは15年産に比べ、16年産は、天北では16%を超えるものが15年産よりも多く、逆に根釧地区では14~16%のものが少ない傾向にあります(図2)。

表2. 牧草サイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	TDN
H 16	4.20	73.5	13.4	38.3	64.5	54.5
H 15	4.10	73.9	12.9	37.9	64.6	55.1
H 14	4.12	73.3	12.7	37.2	63.8	54.9
H 13	4.28	74.4	13.8	37.9	64.5	54.4

表3. ラップサイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	ADF	OCW	TDN
H 16	4.89	45.9	11.2	37.0	65.3	54.7
H 15	4.80	44.0	10.6	36.1	64.3	55.6
H 14	4.94	42.2	10.1	35.6	64.2	55.5
H 13	4.90	43.6	11.2	36.5	65.4	55.0

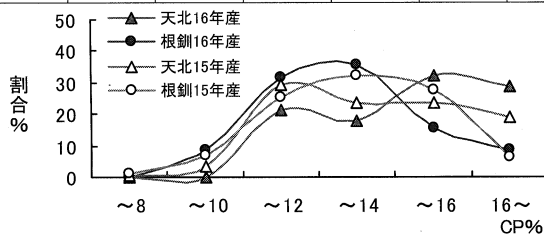


図2. 牧草サイレージのCP分布

一方、乾草では繊維の消化性がやや低く、若干ADFが高い傾向にあります。牧草サイレージのOCWでは高い傾向は見られず、消化性についても例年程度でした。

## ●トウモロコシサイレージの傾向(表3、図3~4)

16年産は台風などで甚大な被害を被ったところもあると思います。平均値を見るとOCWが高く、その影響から特にNFCが低くなっています。OCWは例年に比べると45%未満のものが少なく、55%以上のものが多く、全体の1/4にもなります(図3)。

また、水分は例年に比べると低い傾向にあり、75%以上の高水分のものが少ないようです。

表3. トウモロコシサイレージの平均値(乾物%)

	pH	水分	粗蛋白	OCW	NFC	粗脂肪	TDN
H 16	3.93	73.2	9.1	51.4	31.0	4.0	66.4
H 15	3.80	74.7	9.0	50.6	32.6	3.9	66.8
H 14	3.86	73.9	9.0	47.8	35.0	4.2	67.9
H 13	4.00	73.9	8.9	50.7	32.3	3.8	66.2

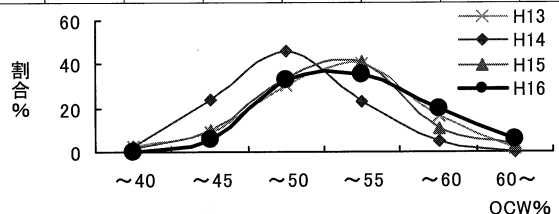


図3. トウモロコシサイレージのOCW分布

TDNについては平均値では大きな差は見られないものの、TDN68%を超えるような高いものが例年より少ないようです(図4)。

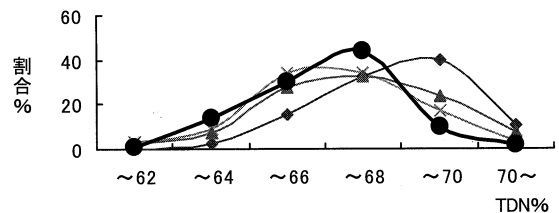


図4. トウモロコシサイレージのTDN分布

## ●まとめ

16年産の乾草、牧草サイレージからは、2年続いたCP、OCWが低い傾向は改善されています。

トウモロコシサイレージについては水分が低い傾向にあります。そのため水分・乾物の把握を確実に行ってください。また、NFCなどエネルギーに関わる項目が低い場合、併給する配合飼料のエネルギーレベルを考慮してください。

このような傾向も全体でのことです。粗飼料の内容は皆様それぞれです。まずはその粗飼料の中身を把握するためにも、粗飼料分析を通じて確認することをお奨めします。(北研 篠田)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 城座 勝明  
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911

FAX (011)891-5774